

市内小学校での森林に関する体験活動の事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：竹原市

取組のきっかけ・経緯

- ・広島県産木材の利用促進や、森林を守り育てる担い手の育成促進の一環として、小学校の要望を踏まえて実施した。
- ・紙芝居を用い、森林(人工林)について学習した後に、小学生が県産木材製品の組み立て及びニス塗りを実習した。

今後の展開

- ・次年度以降も継続実施し、子どもたちから森林についての理解を深め、山の大切さを感じてもらいたい。
- ・取組の様子について、ケーブルテレビで放送しており、父兄や市民にも森林の大切さについて再認識していただきたい。

取組の内容

- ・事業主体：竹原市
- ・開催日：令和2年1月～2月
- ・実施場所：各小学校、学園
- ・制作物：折りたたみテーブル、会議用机、オープンチェアベンチ、カウンター、木製プランター入れ 等
- ・材料制作：太田川森林組合



取組後の感想

【良かった点】

- ・子どもたちが木に触れ合い、楽しそうに組み立てを行っていた。木の匂いを嗅ぐ機会も少なくなっており、良い授業だと感じた。
- ・子どもたちから「楽しかった。いい匂い」などの声が上がっていた。



土砂災害に対する森づくりの事例（被害木の処理，大型土のう設置）

事業名：環境貢献林整備事業

市町名：竹原市

取組のきっかけ・経緯

・平成30年豪雨災害による土砂崩れにより，被災後放置されている人工林において，被害木の処理及び大型土のうを設置した。

今後の展開

・未だ同様の箇所があるが，発災後2年間のみ実施できる事業であることから，次回からは人工林の健全化のため間伐を実施する。

取組の内容

- ・事業主体：竹原市
- ・実施場所：竹原市仁賀町
- ・実施場所：令和2年1月14日～
令和2年2月28日
- ・業務委託先：尾三地方森林組合

取組後の感想

【良かった点】

・これまで土砂や倒れた木により人工林に近づくこともできなかったが，事業実施後はきれいに片付き，斜面も見えるようになった。

・大型土のうの設置により，斜面下での作業をする場合において，安心感が上がった。

【悪かった点】

・作業に入る時期が遅かった。

・県に協議する時期をもっと早く行うことが大切だということを再認識させられた。



第18回ひろしま「山の日」県民の集いの事例

事業名：特認事業（森林・林業体験活動支援事業）

市町名：竹原市

取組のきっかけ・経緯

- ・広島県では、6月の第一日曜日を、ひろしま「山の日」県民の集いを県内各地で開催している。
- ・身近な森林や山と関わるきっかけづくりを目的とし、「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマとする。
- ・第18回は竹原市がメイン会場

取組の内容

- ・主催者：実行委員会事務局（竹原市）
- ・開催日：令和元年6月2日（日）
- ・会場：ハンブー・ジョイ・ハイランド



今後の展開

- ・次回開催地である府中市にフラッグの引き渡しが行われた。



取組後の感想

【良かった点】

- ・4,500人が参加し、盛大な催しとなった。
- ・各種体験や展示ブースにより、森づくり事業について認識が広がったと思われる。
- ・参加者から「身近に山に関わって良かった。」との声が上がっていた。



【悪かった点】

- ・事業を煮詰めるのが遅く、早めの広報が打てなかった。
- ・植樹会に充てる予算が少なくなり、規模的に小さくなった。

